

# 江戸城外濠住民の外濠に対する意識

福井 恒明<sup>1</sup>・高橋 充輝<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 正会員 法政大学教授 デザイン工学部都市環境デザイン工学科  
(〒 162-0843 東京都新宿区市谷田町 2-33)

E-mail: fukui@hosei.ac.jp

<sup>2</sup> 非会員 セントラルコンサルタント (〒 104-0053 東京都中央区晴海 2-5-24)

東京都心の貴重な水辺空間である江戸城外濠は、国の史跡に指定されている文化財であるにも関わらず、下水の流入による水質の悪さや水辺への近づきにくさなどから、十分にその価値を活かしているとはいえない状況にある。一部近隣の団体や大学等による環境改善の動きがあるが、その実現には都心であるがゆえに多様な立場の関係者の総意を確認し、合意形成を図る必要がある。

本論文では、外濠（市ヶ谷濠・新見附濠・牛込濠）周辺の 49 自治会・町会代表者にヒアリングを行い、外濠に対する評価や意見の現状を明らかにすることを目的とした。結果として、全般的に外濠に対する関心が低いこと、外濠から離れるにしたがって外濠に対する意識は薄くなるが、その詳細は新宿区側と千代田区側で異なることなどを明らかにした。

**Key Words:** Sotobori moat, Yedo castle, public awareness, interview

## 1. 研究背景・目的

国の史跡である江戸城外濠は東京都心に残された歴史的に価値ある水空間である。しかし、現在は下水の流入により悪化した水質や臭気、また一部を除いて水辺に人が近づきにくいことなどから、その価値が十分に活かされていないのが現状である。

外濠周辺の大学等を中心に、外濠の環境改善に向けたいくつかの活動が見られるが、その実現には外濠周辺住民の合意形成が前提条件となる。しかし、外濠周辺といっても地区によって歴史的背景が異なり、現在の用途も商業地・業務地・住宅地等と異なることから、外濠に対する関心の有無や意見の内容が多様であることが予想される。

そこで本研究は、江戸城外濠のうち市ヶ谷濠・新見附濠・牛込濠を対象とし、周辺に暮らす人々の外濠に対する意識・意向を把握する研究の端緒として、地区の住民によって組織される自治会・町会の代表者にヒアリングを行い、外濠に対する意見の傾向を明らかにすることを目的とする。

## 2. 調査対象・方法

調査対象は、市ヶ谷濠・新見附濠・牛込濠より距離約 1km 以内の新宿区筆筈町地区 35 町会と千代田区富士見地区及び麴町地区北部 14 町会の計 49 町会・自治会を対象とした（図-1）。文献調査にて、歴史や地区特性を把握した後、各町会・自治会の代表者に電話でアポイントメントを取った上で対面形式でのヒアリング調査を行った。

なお、研究内容の性格上、自治会・町会とヒアリング内容の対応が特定できる情報は伏せる。

## 3. ヒアリング調査

調査対象 49 町会・自治会の代表者のうち、40 名の方に電話でのコンタクトをとることができた。対面式ヒアリングを受けていただけなかった方には、電話でのヒアリングを実施した。ヒアリング実施結果を表-1 に示す。有効な回答を得られた 36 町会・



気や水質について意見がある町会が見られる。しかし、外濠から距離が離れると、外濠に関する意見よりも千鳥ヶ淵の桜についてなど、内濠に関する言及が増える傾向があった。

全体として、外濠から離れると意見のある町会は減るが、その内容や背景は新宿区側、千代田区側で異なる傾向がみられた。

### (2) 意見の内容に関する考察

過去の外濠についての意見は多くあった(29件)が、現在の外濠についての意見は少なかった(13件)。意見・コメントの内容について、過去と現在に分けて整理した(表-3)。過去については「線路沿いの鉄柵がなかった」や「釣り場やボート場として外濠の水面が利用されていた」などの意見があった。一方、現在については「外濠の水面を使った釣りではない」や「ボートを利用している客がない」などの意見がある。

こうしたことから過去から現在に至り、外濠の利用状況や外濠に対する意識の変化によって、外濠に対する心理的な距離感が増したと考えられる。

### (3) 外濠上の施設に対する意見

外濠上に設置された施設や埋め立てについては4町会から意見を得られた。そのすべてが「過去の姿に戻したい」、「撤去したい」という意見である。し

かし、それらの施設によって利益を得ている人や集客についての配慮などから、意見としては持っているものの、改善・復元の実現性は低いとの認識がみられた。

## 5. 結論

本研究の結論は、以下の3点である。

- ・新宿区側では、外濠からの距離が離れるにつれて外濠に対する意見は少なくなる。一方、千代田区側では、濠から離れても内濠に関連して外濠について意見を持つ町会があることを指摘した。
- ・外濠に関する意見の内容について、過去の外濠における利用の容易さと比べ、現在の外濠の利用形態が変化しており、これらによる心理的距離感の変化があることを指摘した。
- ・外濠上に設置された施設について撤去したいという意見はあるものの、その実現性は低いと考えられていることを指摘した。

## 6. 今後の課題

今回のヒアリング対象は、町会・自治会代表者のみとしたが、聴取できた意見は必ずしも町会・自治会構成者の総意とは言えない。今回対象とした地区のうち、外濠に近い地区について、より多くの住民の意見を確認することが課題である。また、外濠周辺には商業・業務地を多く含むことから、住民のみならず、土地・建物の所有者や企業関係者の意見を確認することも重要な課題である。

**謝辞：**本研究の実施にあたりインタビューに応じてくださった外濠周辺住民の皆様、ならびに町内会・自治会代表者をご紹介くださった千代田区・新宿区のご担当者に御礼申し上げます。

表-3 ヒアリング結果のまとめ

自治会	意見									
	過去の外濠について					現在の外濠について				
	周辺利用	鉄道・線路	生物	開発	環境	周辺利用	施設	生物	環境	工事
A	●	●	●	●		●				
B	●	●	●	●			●			
C	●		●		●			●	●	
D					●					
E					●					
F	●									
G	●								●	
H				●						
I					●					
J										●
K	●				●	●	●			
L	●									●
M	●									
N					●					
O		●		●	●				●	
P					●	●				
Q	●	●			●				●	●
合計	9	4	3	4	9	3	2	1	4	3
	29					13				